

28. にしがわら 西河原遺跡

調査地 野洲市西河原字坊ノ前 711 番 10、711 番 13
調査原因 個人住宅
調査期間 令和 3 年 6 月 15 日

1. 調査経過

西河原遺跡は奈良時代から江戸時代にかけての集落跡と周知されている。

今回の調査は個人住宅建設に伴う試掘調査で、敷地内の建物建築範囲に 3.0m × 2.0m、約 6.0m²の調査区を設定して、遺構・遺物の有無の確認に努めた。

2. 調査成果

地表面下約 1.2m まで掘削を行った結果、造成土（1 層）の下にオリーブ灰色極細粒砂層、オリーブ黒色粘土層、灰オリーブ色粘質土層、オリーブ黒色粘土層、灰色砂質粘土層、灰色粘土層が堆積していた（2～7 層）。これらはいずれも旧耕作土と考えられる。その下層で灰オリーブ色粘土層（8 層）を確認した。

地表面下約 1.2m（標高約 86.6m）で確認した灰オリーブ色粘土層が遺構面だと判断されるが、精査の結果、遺構を確認することはできなかった。遺物はオリーブ黒色粘土層から土器が数点出土した。

3. まとめ

今回の調査結果と周辺の調査事例から判断するに、本調査地は西河原遺跡の縁辺部にあたると考えられる。
(芦塚)

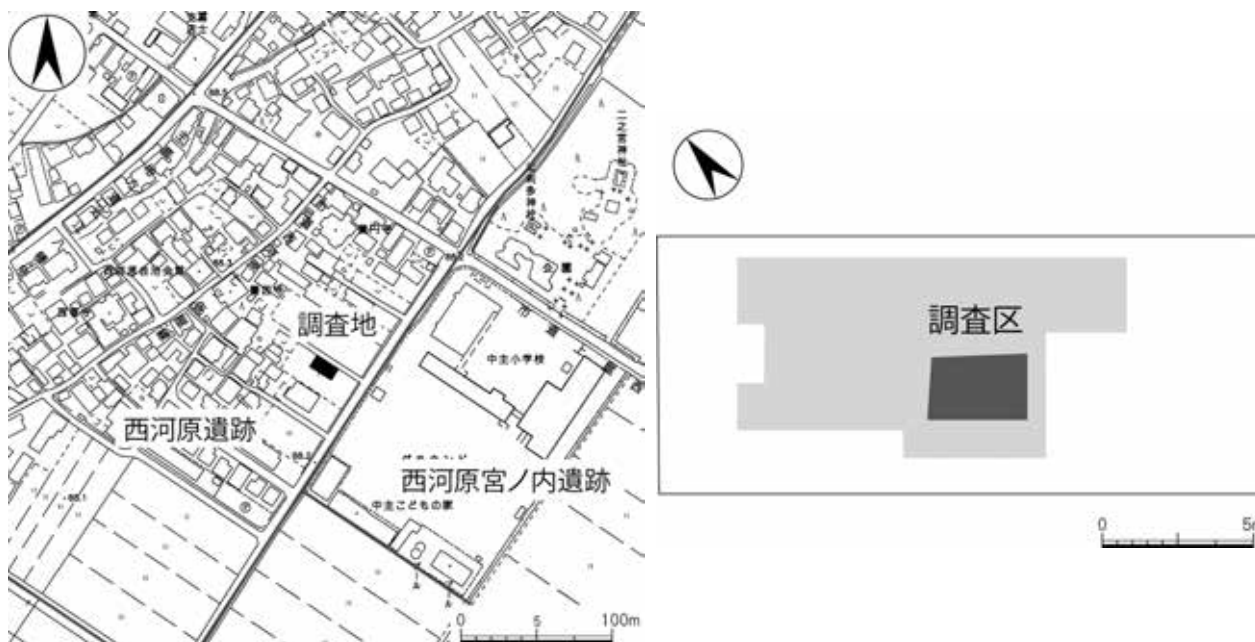
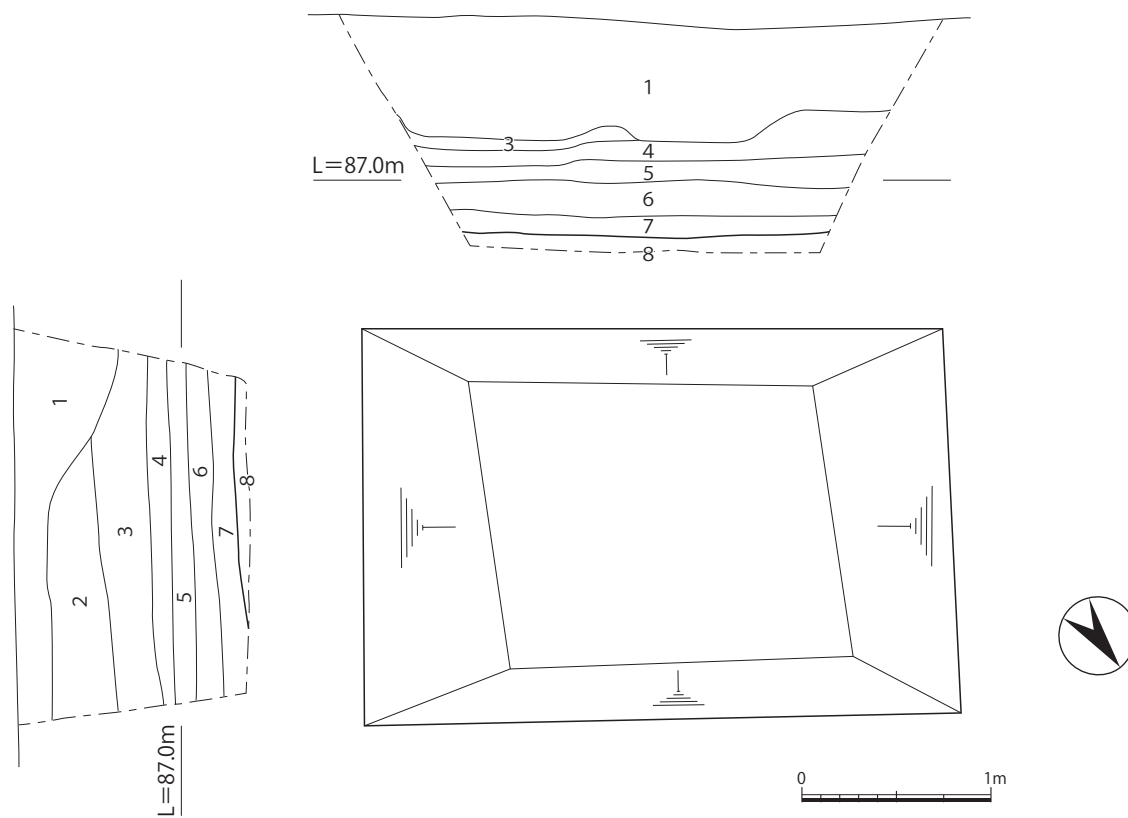


図1 調査地位置図・調査区配置図



1. 造成土 2. オリーブ灰色(10Y4/2) 極細粒砂 3. オリーブ黒色(10Y3/1) 粘土
 4. 灰オリーブ色(5Y4/2) 粘質土 5. オリーブ黒色(7.5Y3/2) 粘土 6. 灰色(5Y5/1) 砂質粘土
 7. 灰色(5Y5/1) 粘土 8. 灰オリーブ色(5Y4/2) 粘土

図2 調査区平面図・土層断面図



全景（北西から）



南壁土層断面

29. 辻町遺跡

調査地 野洲市辻町字六ノ坪 629 番
調査原因 自家用倉庫
調査期間 令和 3 年 6 月 23 日

1. 調査経過

辻町遺跡は弥生時代から中世にかけての集落跡と周知されている。本遺跡は、平成 12 年度に実施した調査で、弥生時代後期の方形周溝墓群、平安時代～鎌倉時代にかけての掘立柱建物群が確認されている。

今回の調査は自家用倉庫設置に伴う試掘調査で、独立基礎の基礎部分 1 ヶ所に約 1.5㎡の調査区を設定して、遺構・遺物の有無の確認に努めた。

2. 調査成果

地表面下 1.5m まで掘削を行った結果、地表面下 0.2m までは表土（1 層）で、その下に 0.5m ほどの盛土（2 層）があり、その下層に砂の層（3 層）が堆積していた。この砂の層からは著しい湧水があった。砂の層の堆積は厚く、地表面下 1.5m まで掘り下げても堆積が続いていた。湧水が著しいことと、独立基礎の構造上調査可能な範囲が限定され、調査区の拡張等が困難であったため、これ以上の掘り下げは危険と判断し、可能な範囲で記録保存に努めた。

3. まとめ

調査では、調査区を中山道に近接した位置に設定したが、街道に伴う遺構は確認できなかった。当該地は明治期には水田であったようである。古代の遺構は下層に存在すると想定されるが、実態は不明である。

(芦塚)

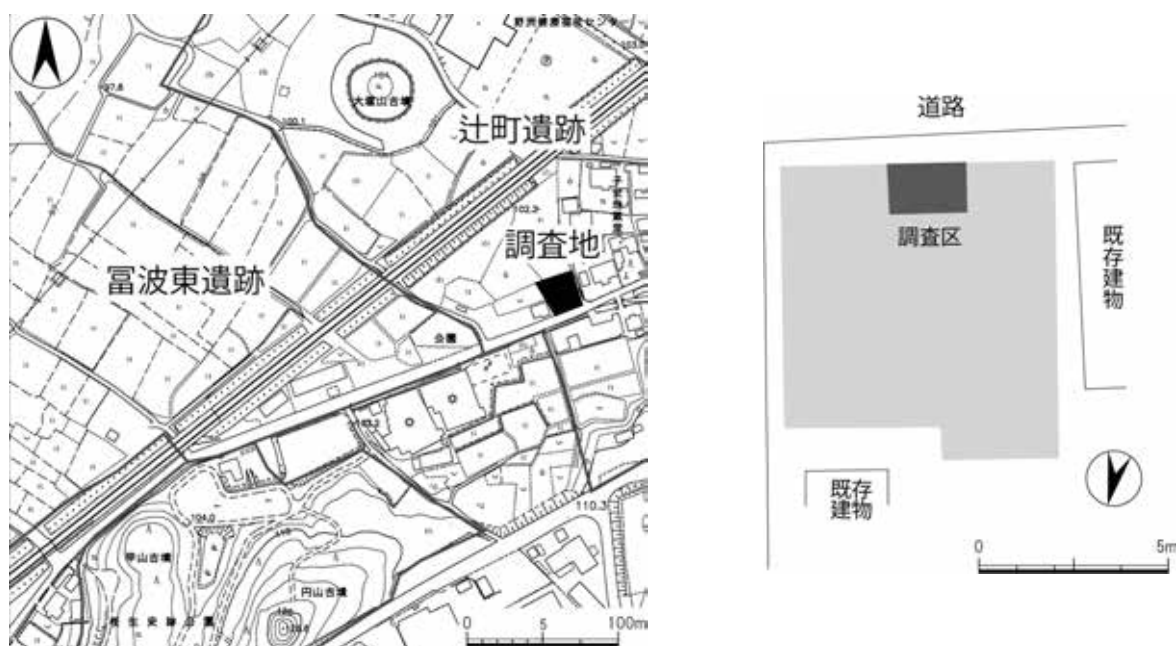


図 1 調査地位置図・調査区配置図

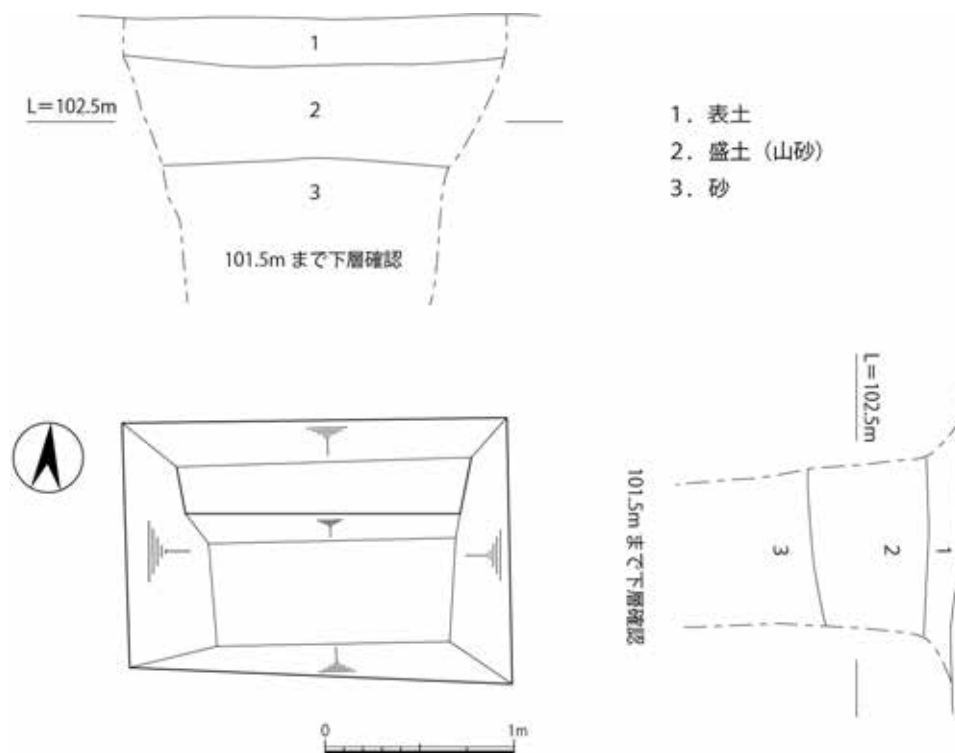


図2 調査区平面図・土層断面図



調査区全景（北から）